

話題に出た主なデータ

希少種が群生する石灰岩地

竜ヶ鼻



伊方の広谷地区にある石灰岩地です。言い伝えでは狼煙台跡といわれ、石灰岩が露出しています。周辺には好石灰性の植物が多く見られ、イワシデの群落をはじめ絶滅危惧種が数種生育しています。

好石灰性の植物が生育する霊場

石鎚権現



広谷地区にある四国愛媛県の石鎚神社を勧請して始まったといわれる霊場です。参道の右手には石灰岩が露出し、竜ヶ鼻と同様に好石灰性の植物を見ることができます。

福智の山肌を口を開ける間歩

銅山跡



伊方広谷に間歩（鉱山の坑口）が残っています。このような間歩は伊方・弁城に数箇所あり、銅を採掘していました。その歴史は古く、元和年間の記録も残っています。戦後もしばしば操業しました。

虎尾桜と同品種の希少な群生

岩屋のエドヒガン



町指定天然記念物の「虎尾桜」と同じ品種のサクラです。分布上、希少なサクラですが、福智山地に数多くみることができます。弁城岩屋地区では数十本のエドヒガンの群生が確認されています。

上野焼創始期の巨大な登り窯

釜ノ口窯跡



上野焼を尊楯が開窯した際に築かれた窯です。登り窯本体は焼成室15室、長さ41mと長大なものです。豊前小倉2代藩主・細川忠利が肥後に移るころまで約30年間操業したと伝えられています。

上野焼で最も歴史の長い窯

皿山本窯跡



開窯は高取焼の内ヶ磯窯の開窯時、寛永元年（1624）ごろと考えられます。この窯は小笠原時代になってからも灌窯として操業が続けられ、明治期まで存続。後期は多彩な釉薬が使用されています。

上野焼初期を物語る古窯

岩屋高麗窯跡



上野焼の古窯跡のひとつ。その出土品などから釜ノ口窯と同時期に操業していた窯だと考えられます。古文書にも元和8年（1622）に「上野焼物山」と「弁城焼物山」の2つの記述が見られます。

古墳時代の優れた装飾品

獅噛環頭柄頭



この柄頭（刀の柄部分の装飾品）は鍍金が施され、正面を向いた獅子が環を噛んでいる形で、名前の由来にもなっています。出土場所は、神崎人見の丘陵上にある古墳で神崎1号墳と言われています。

斜面にのぞく百穴

迫の横穴墓群



かつて彦山川の対岸からも複数の横穴が見えたという規模の大きなものです。横穴墓とは斜面に横穴を掘った構造の古墳時代のお墓です。田川地域に多く見られ、福智町にも多数存在します。

謎につつまれた遺跡

平石



地表上は平たい石が見えるだけで、使用されている石材は周辺にはなく運び込まれたものです。この形態は「支石墓」という弥生時代のお墓に似ていることから、その可能性も考えられます。

豊前と筑前の要衝

鷹取城跡



永承元年（1046）ごろに豊前国の長谷川吉武が築城したといわれています。慶長5年（1600）黒田長政が筑前入封の際に筑前の城となり、「黒田節」のモデルになった母里太兵衛が入城しました。

尊氏ゆかりの古刹

興国寺



安国寺の一つで足利尊氏ゆかりの寺と伝えられています。尊氏の「隠れ穴」や手植えの「墨染桜」などが残され、千手観音像は尊氏の守り本尊の説もあります。近世では歴代藩主が厚遇しました。

福智の修験者を見守った

福泉坊



「坊」は修験者の住居で、福智修験は約1300年の歴史があります。福泉坊は鎌倉時代に座主として15坊をまとめ、現在も石垣などが残っています。福智中宮へと続く長い参道の入口があります。

点在する遺跡が持つ可能性

福田「町内を見回すと、古墳や遺跡や数多く点在していることがわかります。以前、神崎の半蔵山と呼ばれる周辺で石棺墓が出土しましたが、発掘調査では石器類と土器類が出ています。また神崎遺跡で言えば、同じ丘陵上にある人見古墳群（神崎1号墳）から「獅噛環頭柄頭」が出土していますが、「この帯をさらに調べることで、新たな遺跡発見への期待も膨らみます。ほかにも金田には貴重な遺跡がありますが、調査する前に所在を知らせる、盗掘や壊されてしまうという懸念も出てきますからね。」



手つかずの古墳、伝承や伝説も魅力的です。

永末 宏之 副委員長
元小学校教諭、人権擁護委員、方城町教育委員などを歴任した。現在、福智町方城児童センター所長（弁城）

未知なる可能性を秘めた古墳を確認しています。



池長 一利 委員
元田川農協参事、金田町史編さん委員会事務局長、金田町史執筆委員会事務局長などを務めた（神崎）

池長「神崎でいえば、まだ未調査、未発表の古墳を確認しています。ゼロからの出発で未知の可能性を秘めたものですが、あまり調査前に公にできないという現状もあります。また、神崎のふれあいスポーツ公園の奥には豊前と筑前の境界を示す「国境石」があります。この存在もほとんど知られていませんね。永末「古墳では弁城の迫の横穴古墳群がまだ手つかずです。同じく弁城では丸山そのものが古墳ではないかという話も聞きました。これが本当なら相当な規模の古墳ですが、遠い昔、この近くまで海があったことは間違いありません。また、これは面白い話うわさ話なのですが、古事記の

伝説の地である「高天原」が方城にあったという説があるんです。小字を調べると古事記に出てくるものが全部方城地区でそろって言われています。熊谷「上野や市場には「平石」が点在していますが、このひとつもぜひ調査してみたいですね。」

知って欲しい文化財の価値

渡「上野は文化財の宝庫で、鷹取城跡もありますし、興国寺では数々の寺宝が県の文化財に指定されていますが、未指定の千手観音像もすばらしいですよ。福智修験の「福泉坊」は、周辺の史跡を含めて全体が価値あるものです。福智山頂には福智中宮がありますが、ここから福智中宮へと続く参道は、英彦山権現に次ぐ規模だとわれています。まだまだ、上野には文化遺産が挙げればきりがなくくらい眠っています。また、福智町は上野焼や寺など、藩とのゆかりが深いものが数多くあります。これらの町の財産を広く知らしめ、守っていくことが大切だとつくづく感じています。福田「そうですね。残り、伝えるべき価値あるものが文化財であって、それらは一度なくなれば

文化財への意識の醸成を図ることが重要です。



福田 昌 委員長
元中学校教諭、金田町史編さん委員。現在、文化連盟副会長、郷土史家として活動。歌人としても著名（金田）

一度と元に戻せませんから、そのような「なぜ文化財が大切なのか」「文化財とはどんなものなのか」ということを住民のみなさんに知ってもらい努力を続けていく必要があると思います。旧町単位で文化財の研究やボランティアがあります。このような団体を中心にすそ野を広げ、福智町として一体となった活動ができたらしらしいですね。そうすれば調査やガイドなど、幅広く取り組むことができます。文化財指定という保護の面も大切ですが、住民のみなさんの文化財に対する意識の醸成を図ることも重要だと感じています。本日は貴重なご意見、ありがとうございました。